

10:12 イスラエルよ。今、あなたの神、主が、あなたに求めておられることは何か。それは、ただ、あなたの神、主を恐れ、主のすべての道に歩み、主を愛し、心を尽くし、精神を尽くしてあなたの神、主に仕え、

10:13 あなたのしあわせのために、私が、きょう、あなたに命じる主の命令と主のおきてとを守ることである。

10:14 見よ。天ともろもろの天の天、地とそこにあるすべてのものは、あなたの神、主のものである。

10:15 主は、ただあなたの先祖たちを恋い慕って、彼らを受えられた。そのため彼らの後の子孫、あなたがたを、すべての国々の民のうちから選ばれた。今日あるとおりである。
10:16 あなたがたは、心の包皮を切り捨てなさい。もううなじのこわい者であってはならない。

10:17 あなたがたの神、主は、神の神、主の主、偉大で、力あり、恐ろしい神。かたよって愛することなく、わいろを取らず、
10:18 みなしごや、やもめのためにさばきを行ない、在留異国人を愛してこれに食物と着物を与えられる。

10:19 あなたがたは在留異国人を愛しなさい。あなたがたもエジプトの国で在留異国人であったからである。

10:20 あなたの神、主を恐れ、主に仕え、主にすがり、御名によって誓わなければならない。

10:21 主はあなたの賛美、主はあなたの神であって、あなたが自分の目で見ただけの大きい、恐ろしいことを、あなたのために



われた。
10:22 あなたの先祖たちは七十人でエジプトへ下ったが、今や、あなたの神、主は、あなたを空の星のように多くされた。

「主を恐れ、…主の道に歩み、主を愛し、…主に仕え…主のおきてを守る」ということが命じられています。イスラエルが新しい地で生き抜くために必要なことは、これだということです。新しい地は、未経験の気候風土があり、適した作物や農耕法があるでしょう。定住するなら近隣との関係もあるでしょう。そこに適応するための方法や心構えなら、たくさんあるはずですよ。

私たちが新しい地、新しい立場や働き、新しい人間関係などに入ってゆくときには、心配がありますから必要なことは何でも知っておきたいと思えます。また教えたいと思えます。しかし、心に留めておくべきことはそう多くはないということです。それがここにあるような、主を愛して従うということなのです。

なぜなら「天ともろもろの天の天、地とそこにあるすべてのものは、あなたの神、主のもの」だからです。

「包皮」とは律法にあることで、それを切り取ることで神の民であることとしるしとなったのです。しかしそれも外見上のもではなく、心が重要だということです。「心の包皮を切り捨てなさい。」というのは、心から神の民としての自己像を持ちなさいということです。

私たちが自分の心が主を愛しているか、喜んで主に従っているかを考えてみましょう。そして17節以降の教えのように、主の恵みを思い起こしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

